

2015年度上半期の入札不調発生状況と入札不調対策について

1. 2015年度上半期の入札不調発生状況

中日本高速道路株式会社において、2015年度上半期に入札を実施した250万円以上の工事の入札不調の発生件数は34件、発生率は19.2%となっています

入札不調の多い工種は、昨年度に引き続き、土木工事や道路補修工事です。

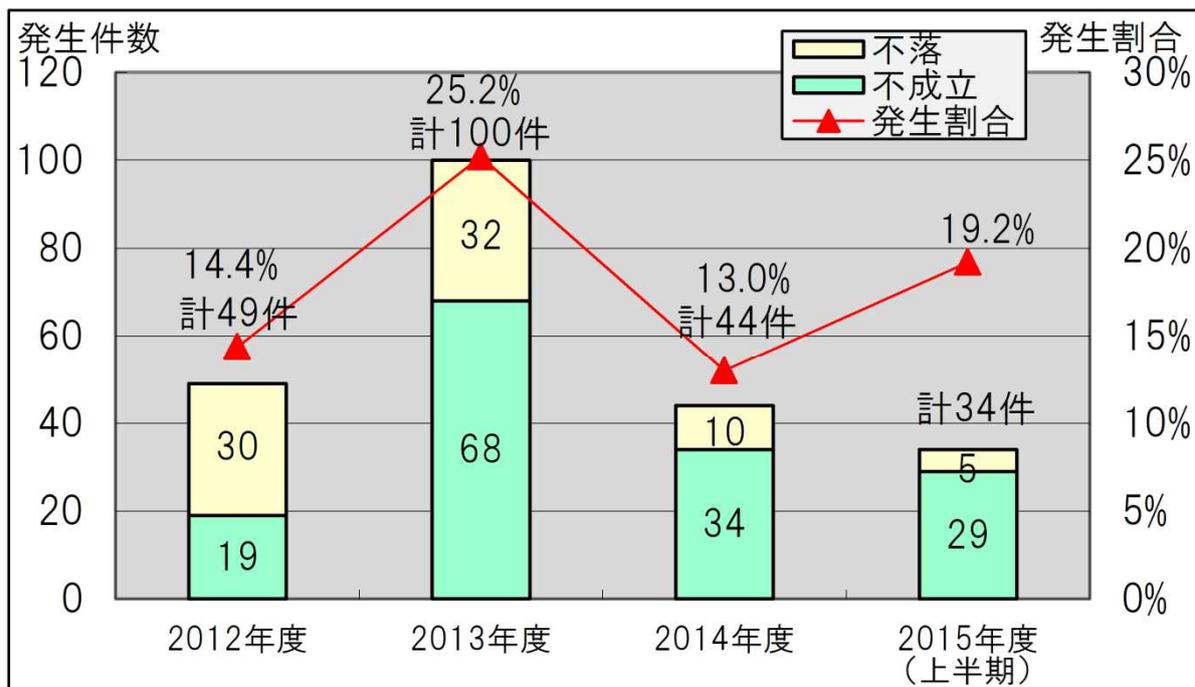
2014年度に比べて入札不調発生率が増加していますが、今年度も、引続き入札不調対策に取り組んでおります。

《年度別入札不調の発生状況》

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度※1
工事入札執行件数※2	341件	396件	339件	177件
入札不調発生件数	49件	100件	44件	34件
入札不調発生率	14.4%	25.2%	13.0%	19.2%

※1 2015年度は、9月末現在の集計

※2 競争入札等で契約金額250万円以上の件数



2. 主な入札不調対策

これまでの主な入札不調対策

○不調特命見積協議方式の特例措置の実施

- ・当初入札が入札不調の場合に、「契約制限価格」を「契約目安価格」に読み替え、最低入札価格提示者など特定の1者を協議相手として選定し、見積書の内訳について確認協議を行い、協議相手より提出された見積価格が契約制限価格を上回った場合でも、協議後の価格で契約できる方式を導入（2014.3）

○工事管理の改善

- ・改正品確法の精神を盛り込んだ「土木工事請負契約における設計変更ガイドライン」および「工事の一時中止ガイドライン」の見直し（2014.12）

今年度の主な入札不調対策

○市場動向を反映した積算基準の改正

- ・国土交通省の一般管理費、現場管理費の改正に伴う諸経費の見直し（2015.5）
- ・価格変動への細やかな対応に向けた市場単価方式の拡大など積算基準の見直し
(2015.4) (2015.7)
- ・諸経費（共通仮設費、現場管理費）の適用を新設、修繕工事に区分し諸経費率の見直し
(2015.10)

○一般競争入札における技術者要件の緩和

- ・入札不調のうち多くを占める不成立の主な発生要因である「配置予定技術者が確保できない」といった課題への対応と、合わせて将来の担い手である若手技術者の活用を目的に、2015年8月以降に入札公告を行う一般競争入札の工事において配置予定技術者の競争参加要件について設定を行わず、契約締結後、現場着手時の設置要件とするように見直し。(2015.8)